

令和5年3月8日（水）開催（主催：林野庁）

森林クレジットの今がわかる！

～J-クレジット制度活用促進セミナー～

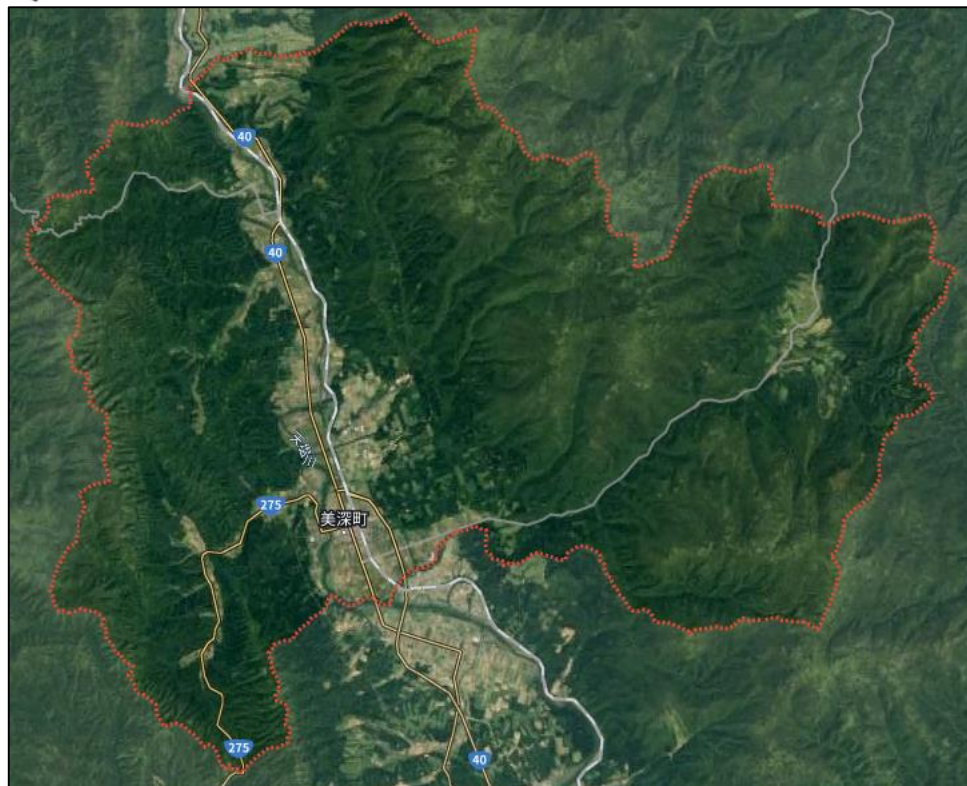
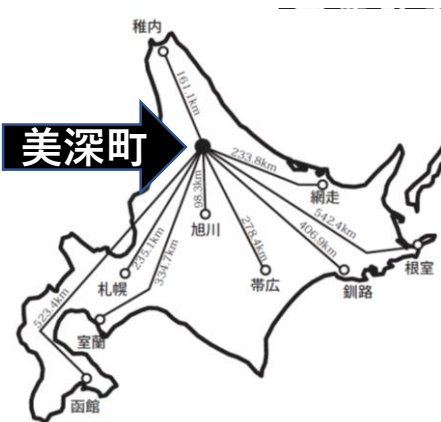
【発表資料】

美深町におけるJ-クレジット 販売に向けた取組



北海道美深町 建設水道課 建設林務グループ
耕地林務係長 小倉 浩揮

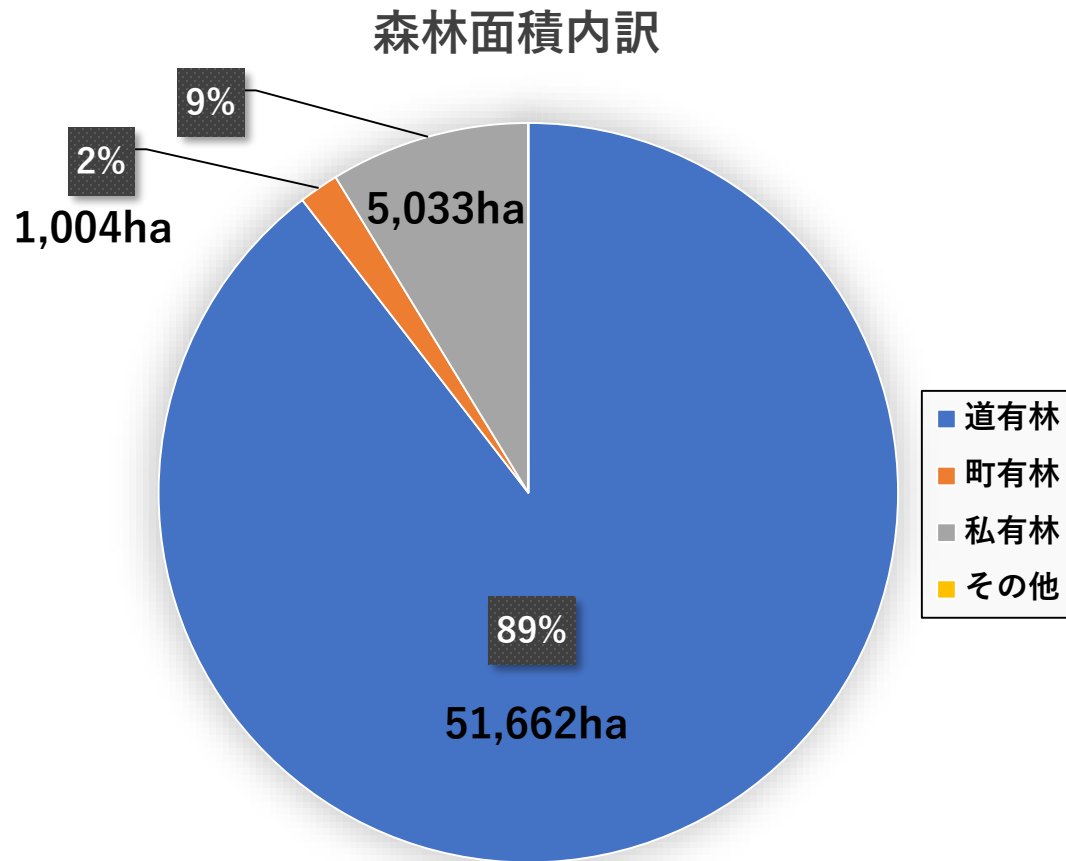
美深町の概要



- 稚内市と旭川市のほぼ中間で、南北に貫流する大河「天塩川」沿岸に集落が形成
- 豊富な森林資源を活かし、古くから「林業」で栄えてきた町
- 最低気温マイナス30°Cを超え、夏は30°Cを超える
- 最深積雪150cmを超える特別豪雪地帯
- 人口：4,145人(令和2年10月1日現在)
- 面積：67,209ha
- 基幹産業：農業、酪農、林業
- 森林面積：57,699ha（森林率86%）
- 人工林面積：13,764ha（人工林率24%）



美深町の森林・林業



- ・ 森林環境譲与税 約18,000千円 (R3)
- ・ 耕地林務係 (農業土木・林業)
担当職員 2名体制
- ・ 森林経営計画 7計画
- ・ 森林組合 1組合
- ・ 林業事業体 7事業体

プロジェクト開始前より

- ・ 造林補助金を活用し森林づくりを実施
- ・ 植樹祭を毎年開催し『木育』活動
- ・ 木質バイオマスボイラーの活用
- ・ 森林認証制度の取組み
- ・ 町単独補助事業の実施

プロジェクトの経緯

- 株式会社SUBARUが1995年に冬季雪上試験場を設立
- 美深町植樹祭へSUBARU社員の派遣・苗木代等の寄付、北海道自然環境保全地域「高層松山湿原」の環境整備を目的とした企業版ふるさと納税（北海道）等
- SUBARU環境方針は“『大地と空と自然』がSUBARUのフィールド”と宣言し、自然環境保全「SUBARUの森」活動をスタート
- この活動を背景に、2018年7月6日SUBARUと美深町は「美深町内の森林保全活動等の具体化に関する協定書」を締結、当町と連携し公共施設へバイオマス材の無償提供やJ-クレジット制度を活用、年間700t-CO2以上を購入する内容



美深試験場の全景
周辺が「SUBARUの森」



SUBARU社員による植樹



「SUBARUの森」のバイオマス材



美深町有林間伐材を使用した
エコプロ2017 SUBARUブース

プロジェクトの経緯



モデルチェンジ等で使用されな
かった糸を集めたりサイクル手袋



「SUBARUの森」の間伐
材を使用したカスタネット



【SUBARUの環境への取り組み】

SUBARUは2017年度より、北海道中川郡美深町にあるテストコース内、約115ヘクタール（東京ドーム2.4個分）の森林を守る「SUBARUの森」活動を始めました。その森林保全の取り組みとして、地元の美深町とも協力しながら、植林や間伐を行っています。

【間伐とは？】

間伐とは、生えすぎた木をちょうど良い密度にするために木を切ってしまう作業です。森林間伐をしないと木が生えすぎて、太陽光が木や地面に十分に届かなくなります。木は太れず、もやし状になり、地面の植物も育たなくなってしまい、森は生きていけなくなるのです。この間伐をすることにより、木や地面に太陽光が当たるようになり、森が生き返るのです！

今回のコースターは、この間伐材を活用しています。


「SUBARUの森」の間伐材を使
用したコースター



PRESS INFORMATION |

ご参考

2018年7月20日

SUBARU 北海道美深町と森林保全活動等の具体化に関する協定書締結

SUBARUは、2018年7月6日、「SUBARUの森」活動における北海道美深町（以下、同町）内の森林保全および自然保護活動の具体的な内容について、同町と「森林保全活動等の具体化に関する協定書」を締結し、協定書調印式を行いました。

当社は同町内に「スバル研究実験センター美深試験場」（1995年開設、総敷地面積361ヘクタール）を所有し、2017年に運用開始した「高度運転支援技術テストコース」を含めて、自動車開発に関する様々な試験を行っています。そして、「SUBARUの森」活動の第一弾として、2017年6月から同試験場内に所有する115ヘクタールの森林で植林・間伐・自然保護などの整備・保全活動に着手すると共に、同町など地域社会とも運動した活動とすべく、同年6月19日に同町と基本協定書を締結して、具体的な活動について検討・協議を重ねてきました。

【「森林保全活動等の具体化に関する協定書」の主な内容】

- (1) 地球環境保全を目指した持続的・公益的な森林機能を発揮するため、広域で「グループ森林認証」を取得
- (2) 適切な森林管理によるCO₂吸収源対策の推進を図るため、国が認証する「J-クレジット制度」を活用
- (3) 森林保全、緑化推進、木育推進の一環として、同町が毎年開催する植樹祭への協賛
- (4) 同町の自然観光資源である松山湿原[※]の環境整備を支援
- (5) 当社所有林の森林施業に伴い生じる未利用間伐材を、木質バイオマスボイラー用燃料の原料として供給

調印式で当社執行役員CSR環境部長の齋藤勝雄は、「SUBARUのクルマは、美深町の大自然に鍛えられ、育てられてきた。今後は美深町の自然環境を守るため、保全活動に取り組みたい」と述べました。



森林保全活動等の具体化に関する協定書調印式



美深試験場テストコースと周辺の森林

調印式の様子

（右：山口信夫美深町長、左：当社執行役員齋藤勝雄）

当社は2017年4月に改訂した「SUBARU環境方針」で、「『大地と空と自然』がSUBARUのフィールド」と宣言し、当社の事業フィールドである『大地と空と自然』が広がる地球の環境保護こそが、社会と当社の未来への持続性を可能とする最重要テーマと考え、すべての企業活動において取り組んでいます。この「SUBARU環境方針」に基づき、具体的な取り組みとして「SUBARUの森」活動をスタートさせました。

SUBARUは、より良い社会・環境づくりに貢献し、持続可能な社会の実現を目指します。

*1: 2017年6月20日発行のプレスリリース「自然環境保全「SUBARUの森」活動をスタート」をご覧ください
https://www.subaru.co.jp/press/news/2017_06_20_4339/

*2: 2017年10月23日発行のプレスリリース「北海道・美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」完成」をご覧ください
https://www.subaru.co.jp/press/news/2017_10_23_4888/

*3: 「森林認証」とは、独立した第三者機関が適切な森林経営が行われている森林または経営組織などを認証し、その森林から生産される木材や製品にラベルを付けて流通させることで、持続可能性に配慮した木材の購買を促進し、持続可能な森林経営を支援する取り組み。「グループ森林認証」は単一の経営組織ではなく、複数の経営組織がグループを作って認証取得するもの。

*4: 森林経営や省エネ機器の導入などによる、CO₂などの温室効果ガスの排出削減量・吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。創出されたクレジットは、低炭素社会実現計画の目標達成やカーボン・オフセットなど、様々な用途に活用できる。

*5: 北海道自然環境保全地域で、日本の重要湿地500の一つに数えられている積高797mの高層湿原
<http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/cms/section/soumu/i83vp60000014nj.html>

プロジェクトの概要

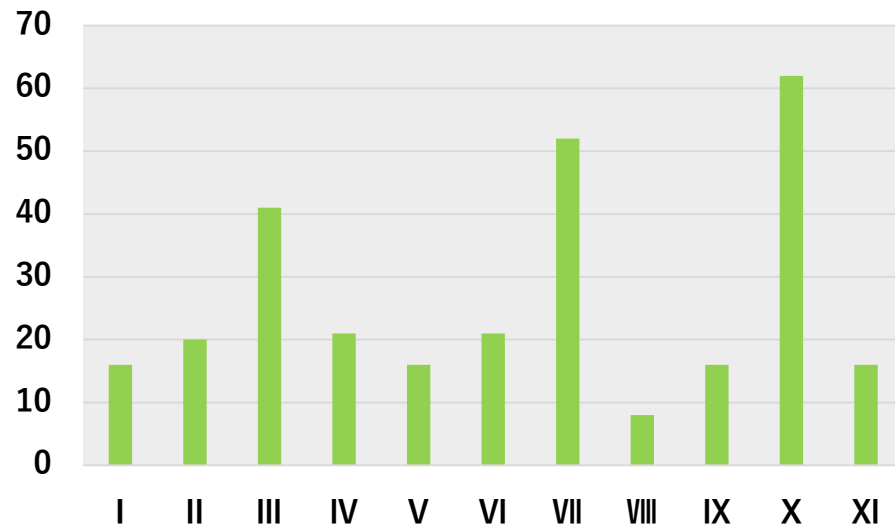
プロジェクト名	美深町森林吸収プロジェクト	
目的	美深町有林において、森林施業によるCO ₂ 吸収量で創出されるJ-クレジットを活用し、地球温暖化防止に貢献する森林づくりを実施すると共に、行政と民間事業者との連携により地域振興施策の推進を図る。	
概要	美深町有林一円において、森林経営計画に沿って森林施業・森林経営を実施することにより、二酸化炭素の吸収量を確保する活動を行う。	
プロジェクト計画の登録を行う森林の場所	市町村	北海道中川郡美深町
	場所	森林経営計画対象森林の全体
認証対象期間	2019年4月1日～2027年3月31日（8年間）	

プロジェクトの概要

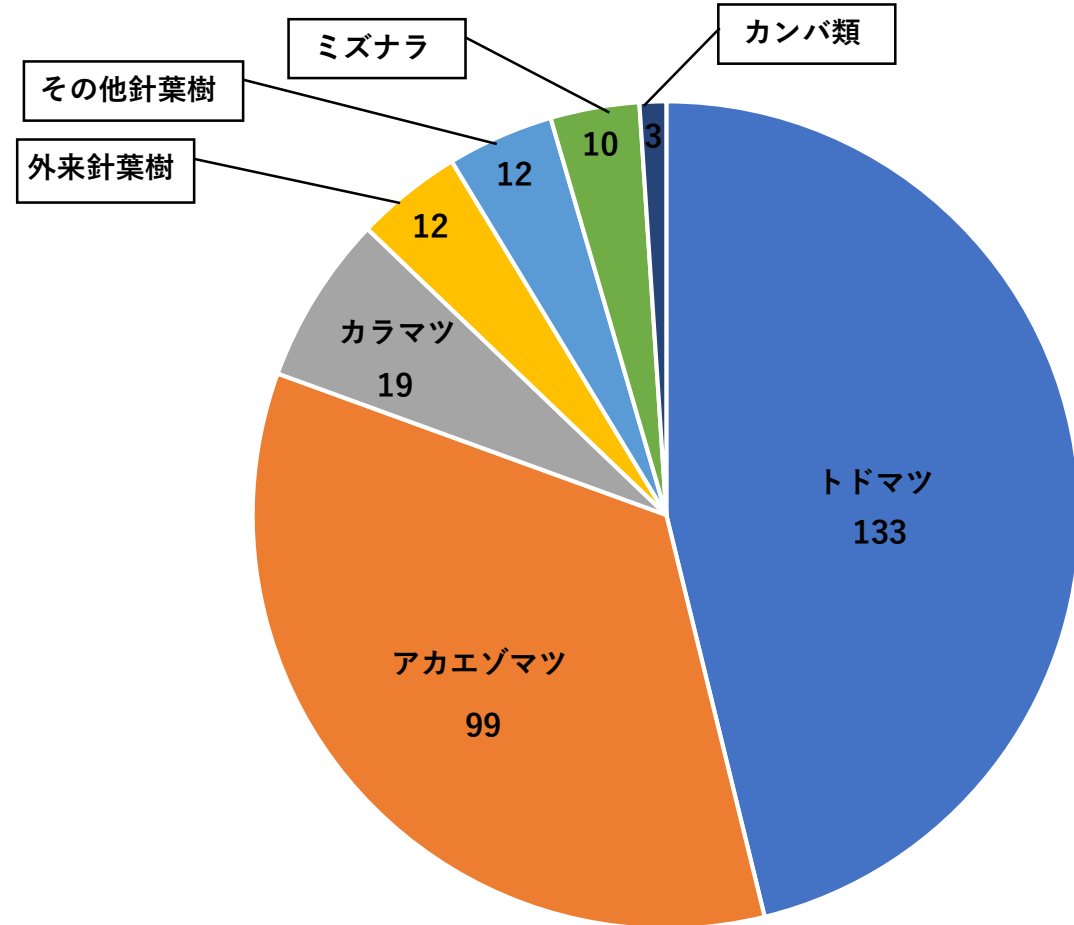
プロジェクト登録の森林面積

	全体森林 (ha)	吸収対象森林 (ha)
人工林	500	288
天然林	497	0
未立木地等	8	0
合計	1,004	288

吸収対象森林の齢級別面積(ha)



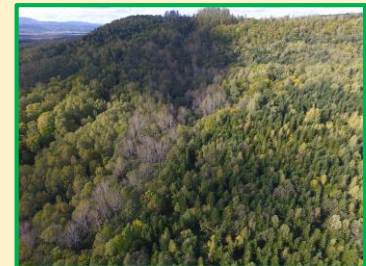
吸収対象森林の樹種別面積(ha)



クレジットの付加価値

BIFUKA AIR

- SDGsへの貢献
- 未来を担う子ども達へ木育活動
- 地元の森林認証材を使用した公共施設の建築
- 森林生態系に配慮した森林づくり
- 未利用間伐材を使用した木質バイオマスボイラー
- 太陽光発電による教育



販売について

認証見込

対象年度	吸収量 (tCO2)	認証・取得時期
2019年	514	2021年
2020年	658	
2021年	1,957	2022年
2022年	1,990	2023年
2023年	1,996	2025年
2024年	2,040	
2025年	1,410	
2026年	2,128	2027年
合計	12,693	

販売実績

2023年2月28日現在

販売年度	販売量 (tCO2)	販売先
2021年	700	(株)SUBARU
	5	CHOOOSE社
2022年	700	(株)SUBARU
	5	CHOOOSE社
	250	CHOOOSE社 (予約)
合計	1,660	

販売方法

◎販売価格：10,000円/ t - C O 2 (税抜)

◎取引方法：相対取引

クレジットの活用事例

JALカーボンオフセット

HP : <https://jal.choose.today/>

jal choose

検索

- 〈概要〉
- ・ 乗客が良質なカーボンプロジェクトによる認定されたカーボンオフセットを購入することで、飛行機の利用によるCO2排出量をオフセットできる気候変動対策プログラム
(例：羽田～新千歳のフライトの場合は約225円を払うことで約70kg-CO2分の排出量をオフセット)
 - ・ 活用されるカーボンプロジェクトの中には『美深町森林吸収プロジェクト』が含まれる



※CHOOSE社とは

テクノロジーベースの脱炭素活動のリーダーとして、気候変動対策を日常生活やビジネスに統合することを可能にするデジタルツールを制作するベンチャー企業です。

クレジットの活用事例

2022年6月4日 北海道新聞

ミズナラ植え緑守る

【美深】町は、町内六郷の町有林で植樹祭を開き、地元の小学生など関係者約70人がミズナラの苗木240本を植えた。

美深小4年生25人が5月25日、上川総合振興局北部森林室の職員の指導を受け、スコップで穴を掘り、苗木を丁寧に植えていった。同校の西田結音さんは「植えるのは大変だった。これからも緑を大切にしたい」と笑顔だった。

植樹祭には日本航空（JAL）の社員3人も加わった。同

美深町児童、JAL社員も参加

社は2009年から、フライトで排出した二酸化炭素（CO₂）について、希望した搭乗客に森林によるCO₂吸収量を買ってもらい、相殺させる「カーボンオフセット」に取り組んでいる。植樹祭に参加したのは、美深町が今年から同社の国内唯一の調達先となったことが縁。

子どもたちと一緒に木を植えた客室乗務員山内由さん（36）は「森林の保全につながってほしい」と話した。

（朝生樹）



ミズナラの苗木を植える美深小の児童とJALの社員

2022年7月1日 JALプレスリリース（抜粋）



JAL GROUP NEWS

カテゴリ: サステナビリティ

2022年7月1日
第22027号



「JALカーボンオフセット」で企業の出張によるCO₂排出量を可視化、オフセットできるプログラムを開始します

JALは、環境保護、地球温暖化の防止に関心の高いお客さまからの声にお応えして、7月1日より、新たに「JALカーボンオフセット(*1)」の企業向けプログラムを開始します。JALではご搭乗いただく航空機が排出するCO₂をオフセットできる選択肢として、2009年より個人向けプログラムを提供しており、2022年2月1日にリニューアル(*2)を実施しました。

新たに開始するプログラムでは、出張時の航空機利用によるCO₂排出量を企業や組織単位で可視化します。ご参加いただく(*3)と、メールで月ごとのCO₂排出量をお知らせするとともに、企業や組織単位でアカウントをご用意し、専用のWebサイトをご利用いただけます。専用サイトではCO₂排出量の履歴の確認のほか、ご希望に応じて日本や世界各地で実施されるさまざまなCO₂削減・吸収プロジェクトへの支援を通じたオフセット、およびオフセット証明書の発行が可能です。

JALカーボンオフセット: https://www.jal.com/ja/sustainability/environment/climate-action/emission_trading/#carbon

※参加申し込みは、「企業・組織のお客さま向け」リンク先へ遷移後、ページ最下部の「お問い合わせ」フォームから可能です。



【ポータルサイトイメージ】



【北海道美深町での令和4年度植樹祭の様子】

「JALカーボンオフセット」は  TikTokでも紹介されております。

詳しくは

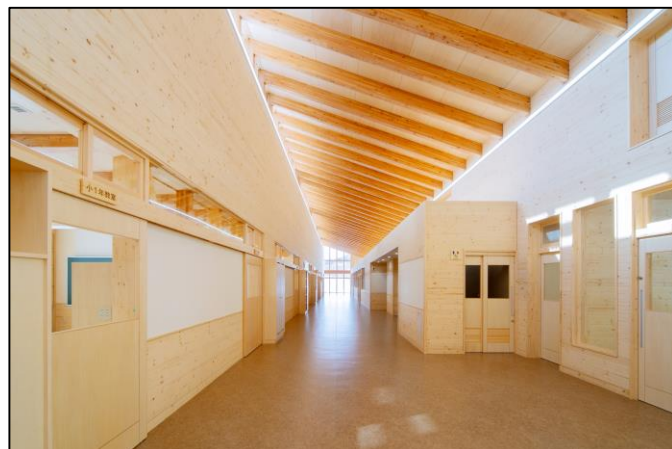
tiktok JALカーボンオフセット

検索 

クレジットの活用事例

美深町立仁宇布小中学校の新校舎が令和3年3月完成。 YouTubeリンク：<https://www.youtube.com/watch?v=wipKI9nYIG8>
美深町内の道有林と町有林から切り出された認証材を使用した木材全体の72%以上を使用し、大規模木造建築物では国内初となるSGECプロジェクトCoC全体認証を取得。

日本航空に新校舎を取材していただき、職員による授業を開催



クレジットの活用事例



このプログラムのしくみ

お持ちのお車のCO2年間排出量を、森林保全活動への支援を通してオフセット(埋め合わせ)するプログラムです。^{※1}
私たちチューリッヒ保険会社も、お客さまと同額を寄付します。^{※2}

※「スーパー自動車保険」を新規ご契約のお客さまのみがご利用いただけるプログラムです。

お客さま^{※3}

保有車のCO2排出量を埋め合わせする金額を支払い^{※1}



チューリッヒ保険会社

お客さまと同額を寄付^{※2}



森林がCO2を削減・吸収
(カーボンオフセット)

地球にやさしく、気持ちよくドライブ

※1 お車のサイズと、運転期間あるいは走行距離からCO2排出量とこれを削減・吸収するためのオフセット(埋め合わせ)金額を算出します。オフセット先は、国内外の森林保全プロジェクトです。詳しくはページ下部の「実施概要」をご覧ください。
※2 当社の寄付金は、森林再生に重点を当てた自治体またはNPOのプロジェクトとなります。
※3 「スーパー自動車保険」に新規でご契約いただいた方が対象となります。



国内外の森林保全活動につながります

このプログラムがサポートする森林保全活動の取り組み例



植栽

植物を植えて育てます。



保育

樹木が健全な森林となるよう不良木を中心に伐採し、樹木の密度を適正に保ちます。



森林の巡視

山火事、風水害、病虫獣害その他の災害の早期発見と適切な応急処置をします。

対象の森林保全活動プロジェクト

- ・北海道美深町における森林吸収プロジェクト
- ・グアテマラ カリブ海沿岸地域保全REDD+プロジェクト
- ・リンパ・ラヤ生物多様性保護プロジェクト

※チューリッヒ保険会社ホームページから抜粋

HP: <https://www.zurich.co.jp/carbonneutral/>

チューリッヒ カーボンニュートラル

検索

今後に向けて

課題

◇主伐の実施

- ・ 伐期を迎えた林分が占めるが、見合せていた
- ・ 制度改正により再造林→排出量の調整（巡視必要）

◇天然生林を吸収対象へ

- ・ 森林の保護が必要（巡視必要）



取組み

◇購入者と連携した木育や森林づくり

- ・ 例年開催の植樹祭に参加いただき、未来を担う子ども達と森林づくり
- ・ 町有林をフィールドとして木育・研修等の場を提供

◇販売収入を活用した森林整備

- ・ 間伐材を使用した木製品の製作
- ・ ゼロカーボンの実現に向けた森林づくり

ご清聴ありがとうございました！！

美深公園「望の森」のエゾヤマザクラ

クレジットの販売に関するお問合せは美深町役場 建設水道課 建設林務グループまで
T E L : 01656-2-1625 F A X : 01656-2-1626
E-mail : b-rinsei@town.bifuka.hokkaido.jp
〒098-2252 北海道中川郡美深町字西町18番地

